

## 平成 28 年度の園名選定の考え方（案）

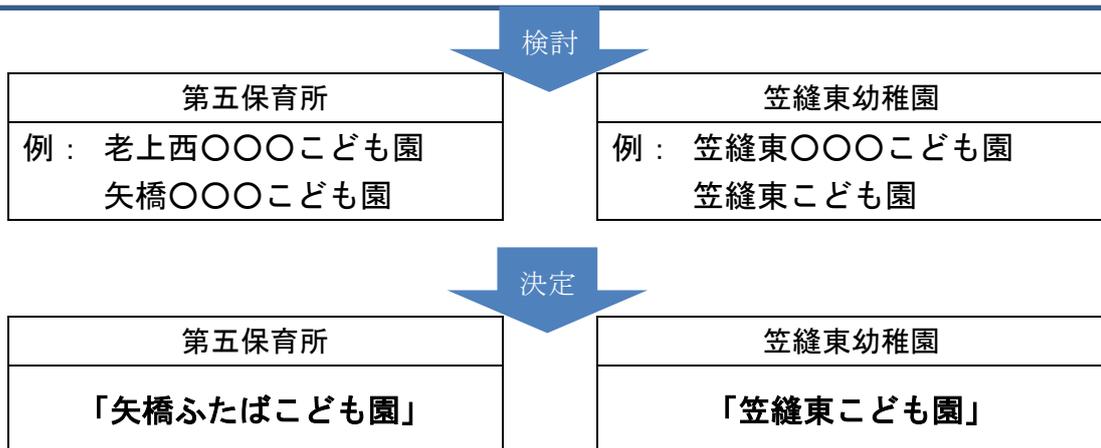
平成 27 年度

平成 27 年度草津市立認定こども園園名等選定委員会より

## 【園名選定の考え方】

①就学前の子どもたちに、豊かな育ちと学びを一体的に提供する新たな施設として、園の目指す理念を表すとともに、地域に根差した施設として親しまれるよう、「地域からの親しみやすさ」と「子どもの育ちへの願い」を組み合わせた園名とすることを基本とする。

②ただし、幼稚園には、「子どもの育ちへの願い」がこめられた園歌が長年引き継がれ、親しまれていることから、こども園への移行後もその園歌を継承できるよう、小学校区内に他の公立施設が無い場合に限り、「地域からの親しみやすさ」のみの園名も可とする。



## 参 考

(参考 1) 「草津」の地名の由来

出典「年表にみる草津のあゆみ」より

&lt;抜粋&gt;

野路宿も鎌倉期になるとその繁栄にかげりが見えはじめ、代わって「草津」の名が表れる。その初見は正安元年（一二九九）に完成した「一遍上人絵伝」である。

「草」には自然発生的に生まれてきたものという意味があり、また、「津」には船着場、渡船場などの意味とともに、「市」などのように人の集まる所、あるいは人の往来の多い所という意味もあり、草津には草市などと同様、自然発生的に多くの人が集まってできた集落、ないしは人の多い所を意味している。

(参考 2) 現在の中央幼稚園の園章、園歌 別紙のとおり

(仮称) 草津中央認定こども園の園名選定については、昨年度の考え方を継承します。

【園名選定の考え方】

就学前の子どもたちに、豊かな育ちと学びを一体的に提供する新たな施設として、園の目指す理念を表すとともに、地域に根差した施設として親しまれるよう、「①地域からの親しみやすさ」と「②子どもの育ちへの願い」を組み合わせた園名とすることを基本とする。



「①地域からの親しみやすさ」の面からは、地域の名称（小学校区名）とします。→「草津」  
「②子どもの育ちへの願い」の面からは、広く募集を行います。

草津保育所	中央幼稚園
「草津 ○○○ こども園」	
①「地域からの親しみやすさ」	②「子どもの育ちへの願い」

〔別紙〕 中央幼稚園の園章・園歌

園章	作者	不明
	作成年	不明
	園章の由来 (園章の表すもの)	童謡の「チューリップ」の歌詞『あか・しろ・きいろ どの花みてもきれいだな』のように、一人ひとりの個性を大切にした教育を職員一丸となつてすすめていく。
園歌	作詞	昭和50年度 職員 7名  ※園歌を作成することになった年にかかわっていた職員で作詞されたと推測される。
	作曲	小田 豊 (現 聖徳大学児童学科 教授、 元 滋賀大学教育学部 教授、 内閣府幼保一体化ワーキング委員)  ※幼児教育の研究会等で関わりの深かった滋賀大学教員に依頼したものと推測される。
	作詞・作曲年	昭和51年2月1日

< 草津市立中央幼稚園 園章 >



< 草津市立中央幼稚園 園歌 >

「ポケットにいっぱい」

作詞 昭和50年度中央幼稚園職員一同

作曲 小田 豊

1. ポケットに ポケットに いっぱい  
おひさまを おひさまを つめたら  
空に のぼれるよ  
ふんわり 雲に のっかって  
世界中を まわるんだ  
みんな みんな 明かるい子
2. 手のひらに 手のひらに いっぱい  
うみの水 うみの水 すくうと  
さかなに なれるんだ  
ぐんぐん ふかく もぐって  
まっかな さんごと あそぼうよ  
みんな みんな 元気な子
3. 目の中に 目の中に いっぱい  
ともだちが ともだちが うつると  
手と手 つなげるよ  
まるい 大きな わになって  
ぼくも わたしも 歌おうよ  
みんな みんな 仲よしだ